

デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ)の事業概要及び効果検証について

【TYPE1】 デジタルの活用による教育環境充実事業 《交付対象事業費:23,854千円 交付金充当額:11,363千円》

■事業概要(令和6年度実施事業)

実施年度	令和6年度	事業概要	協働授業・双方向型の学びの機会が減少し、児童生徒の主体的な学習意欲が低下している。ICTを活用したアクティブラーニングを促すために電子黒板・授業支援システムおよびその活用を最大化する校内ネットワーク環境を整備する。ICTを活用した双方向・個別最適な学びの実現により、支援を必要とする児童生徒への個別支援を拡充するなど教育環境の充実を図る。
具体サービス	【電子黒板整備】	・児童生徒同士の画面を一覧表示することによる授業の活性化 ・オンライン同時双方向の授業により、自宅待機・不登校の児童生徒への授業配信	
	【授業支援システム（スクールタクト）導入】	・協働学習の運営支援・活性化 ・システムを通じた課題の配布・提出によるデータ分析 ※電子黒板と連携することにより、双方向性の授業展開教材	
	【校務用パソコンの無線化】	・場所を問わない授業支援システムの利用 ・校務のロケーションフリー化を実施し、教職員の働く環境の改善	

■具体的使途(令和7年度の経費内訳)

経費項目	金額(単位:千円)
学習支援ソフト利用料	2,396

■実施体制

名称	事業における役割
教育委員会	ICT活用の方向性の決定、目指すICT教育に必要な環境整備
(株)学映システム	検討委員会への参加等
保守事業者	活用サポート

デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ)の事業概要及び効果検証について

【TYPE1】 デジタルの活用による教育環境充実事業

■効果検証

KPI(指標)	単位	目標値(上段) / 実績値(下段)			検証
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	
授業支援システムの使用回数	回数	105	175	350	令和6年度は導入初年度で試験的利用が多かったが、令和7年度は学校ごとの活用状況に差が生じ、使用回数が減少した。活用事例の共有やICT支援事業者による助言・提案を行い、利用促進を図る。
		245	144		
電子黒板の活用割合	%	30	40	50	学習支援システムと電子黒板を連携し、児童生徒の意見や考えを共有することで、意見交換の活性化や学習状況の把握につながった。端末から電子黒板への無線投影が可能となった利便性を周知し、さらなる活用促進を図る。
		30	41		
児童生徒のアクティブラーニングの発達段階	%	30	40	50	授業支援システムや電子黒板を活用して児童生徒の意見や考えを共有することで、主体的・対話的に学ぶ機会が増え、目標達成につながった。今後もICTを効果的に活用し、児童生徒の主体性や社会性の向上を図る。
		11	46		
授業支援システム利用児童生徒の満足度	ポイント	2.8	3.5	4.2	1人1台端末の環境により、授業中に授業支援システムを日常的に活用できる環境ができ、積極的な利用が満足度の向上につながった。今後は、苦手意識を持つ児童生徒の状況や要因を把握し、ICT支援事業者と改善策を検討する。
		3.5	3.6		
いじめ・不登校の可能性が高い児童・生徒の割合	%	4	3	2	Webアンケートの実施や結果の共有に電子黒板を活用することで、児童生徒への理解と教職員間の共通理解が深まり、学校全体での支援の充実につながった。今後も取組を継続し、児童生徒の早期把握と組織的な支援に努める。
		3.1	1.4		
電子黒板利用児童生徒の満足度	ポイント	2.8	3.5	4.2	1人1台端末と授業支援システムを活用し、電子黒板を通じて児童生徒の意見や考えを共有できたことが、授業への満足度向上につながった。今後は各学校の意見やニーズを把握し、ICT支援事業者とさらなる満足度向上策を検討する。
		3.5	3.6		